

# SDGs実践例学ば

## 高松中央高生が企業訪問

高松市松島町の高松中央高校（香川泰造校長）は1日、国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に理解を深めてもらおうと、生徒が県内の実践企業を訪問する授業をスタートした。初日は、2年生5人が同市牟礼町の産業界はかりメーカーの鎌長製衡（鎌田長明社長）を訪れ、環境問題や食品ロス削減に向けた具体的な実践例を学んだ。

### 燃料や食品ロス削減へ

SDGsは、環境や経済、主体的に学ぶ力を養う「総なご」をテーマに地球規模で「合理的な探究の時間」の一環として、持続可能な社会を目指す活動で、高松青年会議所と連携して初めて企画した。企業訪問は、生徒が2年生9クラスの代表が



鎌田社長（右）からSDGs達成に向けた取り組みについて説明を受ける生徒＝高松市牟礼町、鎌長製衡

7月から年末にかけて、それぞれメーカーや飲食店などを順次訪問。各企業の取り組みなどをまとめた上でポスターセッションを年度末に開催するほか、各企業のウェブサイトに内容を掲載する予定。

鎌長製衡では、鎌田社長が自社の取り組みについてスライドを使って説明した。生徒らは実際に工場に入り、ペットボトル減容機や穀物などの粉を計量するホッパースケールを見学。廃棄物を圧縮することによって一度に多く運べ、トラックのガソリンを減らせることや、穀物の量の正確な管理が食品ロス削減につながることを学んだ。

西山開さん（17）は「実際に機械などを見る機会は少ない。実物を見ることで、どのような取り組みがSDGsにつながるか感じることができた」と話していた。